

<p>本校の実態</p> <p>小規模校の特徴を生かし、きめ細やかな教育活動を行っている。落ち着いた中で授業が展開され、生徒の学習への意欲が育成されている。地域は学校に対して協力的である。</p>	<p>学校教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考力に富む生徒を育てる ・実行力のある生徒を育てる ・情操豊かな生徒を育てる <p>を受け、「これからの社会に貢献する人間性豊かで品格のあるたくましい人」を育てる。</p>	<p>育てたい生徒像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習、行事、部活動に意欲をもってとりくむ生徒 ・思いやりある行動ができる生徒 ・未来に向かって希望をもって進める生徒
---	---	---

<p>学校経営方針（学力向上にかかわる校長の方策、要点）</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等の指導では、生徒が自ら学び自ら考えることのできる教育計画を立てていく。また、指導方法についての創意工夫や改善を図るとともに、個々の生徒の能力に即した指導方法の開発を図る。 ・新学習指導要領による教育活動を見据え、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育み、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を目指していく。 ・体力・運動能力向上に関わる取組の充実を図る

<p>各教科の指導の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲的、自主的な学習態度の育成 ・基礎的・基本的な学習の充実 ・体験学習、情報教育の充実 ・読書力、漢字力、計算力の充実 	<p>本校における「確かな学力」</p> <p>○学習指導要領の各内容が理解できること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な言語能力を身に付けようとする力 ・資料を読み取り表現する力 ・数の概念、計算力、数学的推論、論理的思考力 ・現象を科学的に考える力 ・目的や場面に応じて話したり聞いたり伝える能力（コミュニケーション能力） ・思考力・判断力・表現力等をはぐくむ学習指導の展開を行う。 <p>○特に総合的な学習の時間では</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな課題を探求する力 ・課題をまとめる力 ・自分の考えを発表し、自己を表現できる力 <p>○学ぶ意欲を育成する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おおたの子どもポスターにある「学びの場」を意識し、教育活動に臨む。 	<p>道徳教育の指導の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自他を尊重し互いに敬愛する態度 ・社会連帯の精神、奉仕する心 ・正しい判断に基づき行動、人権を大切にす姿勢
<p>総合的な学習の時間の指導の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の良さの発見 ・自分を生かすことができる能力 ・情報を収集、活用する能力 ・まとめる、表現する力 	<p>特別活動の指導の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめのない豊かな心 ・責任感と自立する態度 ・自発的、自主的活動 ・社会の一員であるという自覚 	<p>生活指導の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種調査等を活用し未然防止 ・問題行動を見逃さない姿勢 ・相互理解と協調的な人間関係 ・家庭、地域社会、関係諸機関との連携 ・規範意識、安全意識の育成

本校の授業改善に向けた視点

各教科・領域、学校・学年行事等におけるカリキュラムマネジメント

<p>指導内容・方法の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりのコミュニケーション能力向上のためにミニホワイトボードを活用し、クラス・学年を越えて考え等共有する。 ・読書学習司書の配置に伴い、読書力・探究心を養い、思考力・判断力・表現力を向上させる。 ・3年間を見通した学習指導をする。 ・補充教室を実施し、学習に対する個別指導を充実する。 	<p>教育課程編成上の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫による9年間を見通した教育活動を行う。 ・安全指導、ヘルスプロモーション（健康増進教育）の充実を図る。 ・新学習指導要領の内容を理解し、見方や考え方の育成にかかる教育課程編成に向け準備を進める。 	<p>校内研修・研究の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピューターや視聴覚機材等の教育機器を活用する。 ・ICT環境に合わせた授業を提案する研究を実践する。 ・学校、学年、学級の連携による一貫した指導体制を目指す。 ・新学習指導要領の内容及び解説の理解を図る。 	<p>評価の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒、保護者に明確な評価、評価基準の作成および検証（発達段階に応じた目標設定）の情報を提供する。 ・新学習指導要領の考え方に基づく評価の工夫 ・信頼される評価 ・ICT活用の評価の工夫 	<p>家庭や地域社会との連携の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校、学年通信等を活用し情報を計画的に提供する。 ・授業公開、授業参観等を利用し、家庭や地域と連携した教育活動を連携する。 ・学校支援地域本部（S.S.I.）の協力を得て地域と連携した幅広い学習活動を行う。
---	---	---	--	---

令和元年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

・日頃から国語に対する興味・関心を高められるように話題や題材の工夫をしてきたことで、第2学年は前年度よりも達成率が高まった。第3学年は前年度よりも達成率を少し下回ったものの、ほとんど維持している。

・「書く」観点において、5W1Hを意識して、目的と対象を考えた上、筆者の考えと自分の考えとの共通点や相違点に留意した結果、第2・3学年の「書く」観点は前年度と比較しても達成率が上回っている。

(2) 課題

・1学年において、「読む」「言語的な知識・理解・技能」の2つの観点を除き、3つの観点の正答率が目標値よりも下回っている。

・文章や普段の生活に沿って漢字語句を使いこなすように、新出漢字と平行して既習漢字の学習に取り組んではいるが、第2学年の「言語的な知識・理解・技能」の観点の達成率が前年度と比較して大きく下回っている。

・ポイントを押さえてメモを取る指導はしていたが、発言者の意図や目的を理解したメモとりまではできていないため、第3学年の「話す・聞く」の観点の達成率が前年度と比較して下回っている。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和元年度結果	平成30年度結果	平成29年度結果
第1学年	下回っている。		
第2学年	前年度より 1. 0ポイント 下回っている	上回っている。 (第1学年時)	
第3学年	前年度より 5. 7ポイント 下回っている	前年度より 1. 3ポイント 上回っている (第2学年時)	上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析 (観点別)

① 第1学年

関心・意欲・ 態度	話す・聞く	書く	読む	言語についての 知識・理解・技 能
目標値を大き く下回ってい る。	目標値を下回 っている。	目標値を下回 っている。	目標値を上回 っている。	目標値を上回 っている。

② 第2学年

関心・意欲・ 態度	話す・聞く	書く	読む	言語についての 知識・理解・技 能
前年度より 7.3%上回っ ている。	前年度より 8.0%上回っ ている。	前年度より 7.0%上回っ ている。5W1 Hを意識して 考えて書くよ うに徹底した ことにより、定 着度が上がった と考えられる。	前年度より 5.8%上回っ ている。	前年度より1 1.1%下回っ ている。主に漢 字学習を家庭 学習で行うよ うに指示した が、定着度が低 かった。

③ 第3学年

関心・意欲・ 態度	話す・聞く	書く	読む	言語についての 知識・理解・技 能
前年度より 0.1%下回っ ている。	前年度より6. 2%下回って いる。聞き取り において、メモ を取ることに 重点を置きすぎ 、本題は何か 考えながら聞 き取ることが できていなか ったと考えら れる。	前年度より 5.6%上回っ ている。	前年度より 2.5%下回っ ている。	前年度より 9.2%上回っ ている。家庭学 習における漢 字学習の仕方 が身につけて きたと考えら れる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

関心・意欲・ 態度	話す・聞く	書く	読む	言語についての 知識・理解・技 能
自他の考えを 発表、聞くこと により、考えの 多様性を理解 させ、意欲関心 を高めさせる。	話の要点やキ ーワードを聞 き取ることを 意識させる。	読み手の立場 に立って、表記 や語句の用法、 叙述の仕方を 意識して書く ように指導し ていく。	文章の中心的 な部分と付加 的な部分、事実 と意見との関 係などについ て捉え、要旨を 把握できるよ うに指導してい く。	基本的な文法 の知識を身に つけるととも に、指示する語 句と接続する 語句に注意し、 文章の読み書 きができるよ うに指導して いく。

（2）第2学年

関心・意欲・ 態度	話す・聞く	書く	読む	言語についての 知識・理解・技 能
引き続き、興味 ・関心を高め、 意欲を持って 国語に取り組 んでいけるよ うに指導して いく。	さらに集中し て聞き取り、思 考力、判断力、 表現力を高め られるように 指導していく。	多様な考えが できる事柄に ついて意見を 述べたる活動 を取り入れて いく。	文章と図表な どを結び付け、 その関係を踏 まえて内容を 解釈する力を 身につけさせ る。	新出漢字、既習 漢字を文や文 章の中で使え る、日常生活で 使いこなせる ように指導し ていく。

（3）第3学年

関心・意欲・ 態度	話す・聞く	書く	読む	言語についての 知識・理解・技 能
興味・関心を高 め、意欲を持っ て国語に取り 組んでいける ように指導し ていく。	本題は何かを 考えながら聞 き取るように 指導していく。	自分の経験を 踏まえて目的 や意図に応じ た表現になっ ているかを確 かめて書ける ように指導し ていく。	授業で培った 読み取る力を 多様な文章で も生かして読 むように指導 していく。	敬語などの相 手や場に応じ た言葉遣いを 使えるように 指導していく。

令和元年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 2年生、3年生ともにどの領域についても着実にポイントをあげている。

(2) 課題

- ・ 2年生、3年生と比較すると1年生のポイントが少ないので、基礎力の充実に重点を置いて授業を行う。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和元年度結果	平成30年度結果	平成29年度結果
第1学年	下回っている。		
第2学年	前年度より 7.3ポイント 上回っている	上回っている。 (第1学年時)	
第3学年	前年度より 4.4ポイント 上回っている。	前年度より 2.7ポイント 上回っている。 (第2学年時)	上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
地理的分野・歴史的分野の関連する問いは目標値を若干下回っているが、国際分野は上回っている。	複数の資料を使い読とれることを記述で説明したり、選択する問いに対する正答率が低かったりする傾向がある。	地理的分野に関連する問いの正答率は目標値を上回っているが、歴史的分野と政治・国際分野は下回っている。	用語そのものを解答する問いの正答率は比較的高いが、用語の説明について適切なものを選択する問いの正答率は比較的低い傾向がある。

② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
写真やビデオ学習などの教材を利用し、前年度より達成率が25.5%上がった。	資料読み取りに関する学習と班での発表の機会を増やした結果、前年度より達成率が22.3%上がった。	資料問題に取り組むことで、前年度より達成率が17.0%上がった。	小テストを行うことで、前年度より達成率が13.4%上がった。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
いずれの問いも正答率が高くなっている。	資料から読み取れる情報を正確に把握し、正しい答えの選択や記述をする問いの正答率が他の観点と比べて低い傾向がある。	資料から分かることを読み取る問いに対する正答率が他の観点よりも低い傾向がある。特に地形図の読み取りに関する問いに課題がある。	いずれの問いも正答率が非常に高いが、用語を単語で解答する問いは正答率が低下する傾向がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
生徒の身近なものなどを使った具体的な例えなどを利用し、教科に対する関心を高めつつ、教科書の学習内容をより深めることができる指導を行う。	複数の資料を使い、情報を読み取り、記述で自身の考えを表現する活動を積極的に取り入れた指導を行う。	歴史的分野において、各資料から情報を読み取る学習を積極的に取り入れる指導を行う。	基礎的・基本的な用語の意味を定着させる学習や他の社会的な事象との繋がりを意識させる学習に取り組ませる機会を増やす。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
社会的な出来事に 関心が持てるよう に、時事的な話題を 授業時に多く取り 上げるようにして いく。	問題文や資料から 情報を正確に読み 取ることと、記述す る機会を増やして いく。	写真やビデオ教材 など生徒の興味・関 心を引く教材を準 備し、各資料から情 報を読み取る学習 を取り入れる。	基礎的・基本的な用 語の定着をより充 実させるために、小 テストを実施して いく。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
受験に向けて、現代 社会に対する時事 的な情報への関心 を高めるため、公民 の授業において、現 在の日本の政治や 経済、国際問題など を題材として指導 を行う。	問題文や資料から 情報を正確に読み 取り、自身の意見を 記述などを通して 適切に表現する活 動を取り入れる機 会を増やす。	資料から情報を読 み取る活動を積極 的に取り入れてい く。また、受験対策 として、地形図の読 み取りの復習を行 う。	基礎的・基本的な用 語の定着をより充 実させるために、用 語への知識を深め る指導や様々な社 会的事象との繋が りを意識させる指 導を行うことで、学 習内容の理解を深 める。

令和元年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

・2年「分数と分数の除法の計算では目標値を上回り、問題集や授業内の復習での成果が表れている。

・3年「1次関数のグラフから、ばねがのびた長さを読み取ることができる」において目標値を上回った。

(2) 課題

・「小数・分数の計算」については毎年課題の残る領域である。全学年を通して引き続き苦手意識を無くし問題が解けるよう問題集や授業内での復習に取り組んでいく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和元年度結果	平成30年度結果	平成29年度結果
第1学年	上回っている。	/	/
第2学年	前年度より 3.9ポイント 上回っている	上回っている。 (第1学年時)	/
第3学年	前年度より 0.8ポイント 下回っている	前年度より 1.9ポイント 上回っている (第2学年時)	上回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
棒グラフと円グラフから判断の理由を説明する記述問題において目標値を大きく下回っている。	平均を求めることはできるが、平均の考えを使って全体を予想する問題において目標値を下回る。	小数・分数の計算、速さの問題、百分率の問題において目標値を下回っている。	比例の関係はグラフを読み取り、式に表すことができているが反比例においては目標値を下回る。

② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解

おおむねすべての項目において目標値を上回っており、目標を達成できている。	すべての項目において目標値を上回っており、目標を達成できている。	簡単な1次方程式を解く問題では目標値を8.6ポイント下回っている。	すべての項目において目標値を上回っており、目標を達成できている。
--------------------------------------	----------------------------------	-----------------------------------	----------------------------------

③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
おおむねすべての項目において目標値を上回っており、目標を達成できている。	連立方程式の文章題において x と y が何を表しているのか指摘する問題で目標値を下回った。	正十五角形の1つの内角を求める問題において若干、目標値を下回っている。	平行四辺形になるための条件についての理解に課題があり、目標値を下回った。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
無答の割合が高いため、記述問題において自分の考えを持ち表現する力を養うようにする。	既習事項を用いて活用する力を養うことを意識し授業を展開していく。	様々な単元において小数、分数、速さ、割合を扱う際には復習を取り入れながら丁寧に進めていく。	比例と反比例の違いに注目させながら、関数への理解を深めさせる。

（2）第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
引き続き、興味関心を高め、意欲を持って数学に取り組んでいけるよう指導していく。	引き続き、思考力、判断力、表現力を高められるよう指導していく。	方程式を扱う際には少し丁寧に復習を取り入れながら新しい内容を扱うようにしていく。	引き続き、数学に対する知識、理解を高められるよう指導していく。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
引き続き、興味関心を高め、意欲を持って数学に取り組んでいけるよう指導していく。	文字の表す意味を丁寧に扱い、言葉で表現する力を養うよう指導していく。	引き続き、数学に対する技能を高めていけるよう指導していく。	総復習において知識の振り返りを行うようにする。

令和元年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・疑問を解決する方法を考えさせたり、自然界の規則性を身近に見られる現象と結びつけて説明したりすることを心がけてきたので関心は区の平均を超えている。
- ・実験・観察を生徒一人ひとりが意欲を持って取り組めるよう、基本操作を身につけさせたり、やり方を丁寧に説明したりすることによって、技能が向上している。
- ・各内容についての改善が見られ、不得意な内容での底上げがはかられた。

(2) 課題

- ・実験・観察の細かいところで、理解の浅いところがある。
- ・
- ・

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和元年度結果	平成 30 年度結果	平成 29 年度結果
第 1 学年	上回っている	/	/
第 2 学年	前年度より 1 2 ポイント 上回っている	上回っている (第 1 学年時)	/
第 3 学年	前年度より 1 2. 5 ポイント 上回っている	前年度より 0. 3 ポイント 下回っている (第 2 学年時)	上回っている (第 1 学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第 1 学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
区平均を下回っている。	良好である。	区平均を上回って、良好である。	区平均を下回っている。

② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
前年度より 5.8% 下がっているが、区 平均を上回っている。	前年度より 5.5% 下がっているが、区 平均を上回っている。	前年度を 3.7%下 がっているが、区平 均を上回っている。	前年度より 3.1% 下がっているが、区 平均を上回っている。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
前年度より 4.7% 上回り、区平均も上 回って、良好である。	前年度より 6.7% 上回り、区平均も上 回って、良好である。	前年度より 2%上 回っているが、区平 均を下回っている。	前年度を 6.2%上 回り、区平均も上回 って、良好である。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
学習の取りかかりと して、その課題が身 近な問題であることを 意識づけられるよう にする。	科学的な思考を 要求されるような 課題を設定し、生徒 間で討論させる。	顕微鏡やガスバーナ ーなどの実験・観察 器具を一人ひとりが 正しく、安全に使い えるようにする。	ノートの点検や実験 ・観察のレポートの 確認・单元ごとの問 題演習を実施する。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
身近な例を取り 上げ、その中に潜む 科学的な事象を課 題とし、興味・関心 を引き出す。	科学的な思考を 要求されるような 課題を設定し、生徒 間で討論させる。	一人ひとりが実 験・観察できるよ う、可能な限り個別 化する。	ノートの点検や実験 ・観察のレポートの 確認・单元ごとの問 題演習を実施する。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
身近な例を取り上げ、その中に潜む科学的な事象を課題とし、興味・関心を引き出す。	科学的な思考を要求されるような課題を設定し、生徒間で討論させる。	一人ひとりが実験・観察できるよう、可能な限り個別化する。各実験・観察の際に、技能の面でポイントになることをおさえる。	ノートの点検や実験・観察のレポートの確認・单元ごとの問題演習を実施する。

理科では単元により得意不得意があらわれることも多々ある。第2学年で他の領域と比較して地球領域のポイントがやや低めになっているのは、深く考えさせる授業が少なかったと思われる。

令和元年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

・音楽に対する苦手意識をなくせるような授業や雰囲気作りに力を入れたことで、全体的に生徒の意欲が高まった。

・歌唱において発声練習を継続して行い、段階に応じた声づくりをしていくことで生徒の技能が高まった。

・グループ活動を増やすことで、自ら学ぶ姿勢を育んだり、生徒同士で教えあったりするなど自主的に活動に参加する生徒が増えた。

(2) 課題

・歌唱の分野に比べ、器楽、鑑賞の分野の意欲が低い。

・作曲者・作曲者の意図を感じ取り、意図をもって表現を工夫していく力をさらに伸ばしていきたい。

・歌うことが好きな生徒は多いが、自信を持って歌うことができている生徒はあまり多くないので、増やしていきたい。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和元年度結果	平成 30 年度結果	平成 29 年度結果
第 1 学年	/	/	/
第 2 学年	/	(第 1 学年時)	/
第 3 学年	/	(第 2 学年時)	(第 1 学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第 1 学年

関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
授業規律が確立されてきて落ち着いて学習できる環境になった。	感じ取ることはできるが、自ら工夫する姿勢は弱い。また言語化する力が弱い。	よりよい発声に必要な、口の開け方を多くの生徒ができている。	聴き取ったことを素直に自分の言葉で表すことができた。

② 第2学年

関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
何事にも真面目に取り組んでいるが、自ら意欲的に表現しようとする生徒は多くない。	感じ取ることや、言葉にすることはできるが、音楽表現に表すことは苦手な生徒が多い。	音楽表現について、真面目に取り組んでいるが、自ら表現しようとする生徒は多くない。	聴く力を多くの生徒が備えている。もう少し根拠を持って自分の意見を発表できるとさらによい。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
何事にも真面目に取り組む、高い意欲をもって活動できている。グループ活動においては、自主的に学ぼうとする生徒が多い。	感じ取ることや、言葉にすることはできるが、音楽表現に表すことができる生徒はまだ多くない。	1年生の時から真面目に活動に取り組んできたことで全体的に力を伸ばすことができている。特に女子に能力の高い生徒が多い。	聴き取ったり、感じとったりしたことを根拠を持って発表し、歴史的な背景と関わらせて聴くことができた。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
前向きに取り組む生徒が多いため、表現することに自信を持てるような活動を継続して取り組ませる。	創意工夫しやすい題材を設定する。また創意工夫の言語化と歌唱表現をセットにしてよりわかりやすく授業を展開する。	よりよい発声を定着させるための基礎的な発声練習を通して段階的に声づくりを行なっていく。創意工夫したいことを音楽表現に表すことができるように基礎的な技能の身につけさせる。	高い意欲で学習できる題材を設定し、生徒が感じたり理解を深めたりすることを実感できるような授業を展開する。 またICTを活用し、より意欲的に学習できるよう教材研究に努める。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
さまざまな活動を通して、自信を持って表現したり発言したりできるよう、少人数での活動から人数を増やしていき経験を多く積みませ生徒の自信へとつなげていく。	音楽表現において簡単に創意工夫できる教材を設定する。また生徒自身が工夫したことで得られる効果を実感できる経験を積みせる活動を取り入れられる。	生徒達自身で意見を出し合ったり教えあったりする、主体的な活動を通して、学習への意欲や向上心を高めていく。 器楽において、身近な曲などを教材に選び、高い意欲の中で技能を高めていく活動を行なう。	聴きとったことを発表したり、ワークシートに書いたりする際に、根拠を持って発表できるようにアドバイスをしていく。 ICTを活用し、より意欲的に学習できるよう教材研究に努める。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
鑑賞、器楽の学習意欲を高めることができるような教材開発に努める。 さまざまなグループ活動を通して、教えあったり、伝え合ったりしていく経験を積み、主体的に学習していく姿勢をさらに伸ばしていく。	表現を工夫したり、比較したりする活動を通して、自ら実感しよりよい表現を自主的に工夫していく姿勢を身につけさせる。 また発表の機会を取り入れ、多くの価値観に触れさせる。	より高い技能を身につけられるよう、手本を示し、細かい技術指導を適宜行なう。お互いに聴きあったり、発表したりする機会を増やすことで、自信を持って表現ができるよう指導していく。	鑑賞で学習したことを音楽表現でも生かすことができよう関連性を意識させ学習活動を行なう。 ICTを活用し、より意欲的に学習できるよう教材研究に努める。

令和元年度 美術科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

・1学年では授業前に楽しい映像資料を準備するなどして美術への興味関心を高めた結果、制作への意欲が高まった。

・2学年ではICT機器を活用した鑑賞での意見交換を通して多様なよさや美しさを感じとることができたので、表現の学習においても、個々の発想や構想の能力が高まった。

・3学年では修学旅行と関連させた鑑賞授業を通して、日本文化のよさや美しさを自分なりに主体的に感じとることができたので、鑑賞の能力が高まった。

(2) 課題

・表現の学習では制作意欲の高まりとともに表現内容が深まってきたので、制作時間の見直しが必要である。

・新学習指導要領の実施に向けて、生活の中に生きる美術のよさや美しさを感じとる表現や鑑賞の学習を3年間を通して系統的に取り組みたい。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和元年度結果	平成30年度結果	平成29年度結果
第1学年			
第2学年		(第1学年時)	
第3学年		(第2学年時)	(第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
授業開始前の準備の様子や制作への取り組み方など意欲関心の高まりが感じられる。	個々の心情からテーマを設定する作品では、個々の発想が豊かに発揮されている。	発想構想に基づいた材料の選択や表現方法の工夫が、作品に表れている。	自分以外の生徒の意見から、よさや美しさを感じとる視点を広げたり深めたりすることが出来た。

② 第2学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
発想構想する学習活動では多彩で豊かなアイデアを出すことを楽しんで出来ていた。	ピクトグラムのア イデアでは作品のよさや美しさを発見する鑑賞の学習を生かして、自らのアイデアを深めることが出来た。	自分のテーマに合った表現方法を各自で工夫して技能を発揮出来ていた。	作品鑑賞会では、自分の意見を発表することが出来ていた。他の人の意見を聞いて考えを深めることが出来ていた。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
既習事項を生かして意欲的に表現や鑑賞の学習に取り組んでいる。	自分の思いを深く見つめて作品のテーマを発想構想することが出来ている生徒が多い。	1・2年での既習事項を発展させて創造的な技能を発揮し、見通しを持って制作できている。	自分なりの感性を生かして根拠を持って日本文化のよさや美しさを味わうことが出来た。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
一人ひとりへの声かけ、それぞれに応じたきめ細かな指導を行い、美術への苦手意識を少しでも排除し、楽しく表現や鑑賞の活動に取り組ませる。	造形的な視点や思考を意識させて、発想や構想を豊かに発揮できる題材を設定する。	基礎的な技能を確実に習得させると共に小学校図画工作での学びを生かして、自信を持って表現の活動に取り組ませる。	互いの作品を鑑賞し合い認め合う活動を通して、個々の表現のよさや美しさを発見させて見方を広げる。表現にも発展させて、造形的な視点や思考の定着を図る。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
自ら主体的に学習に取り組む姿勢を育む題材を設定する。自己の内面を探る題材を通して、自分の見方や考えを肯定させて意欲を高める。	今までに経験したことのない題材を設定して、新鮮な気持ちで発想や構想に取り組ませる。豊かな発想力を育む。	学習のねらいを明確にして意図的に表現活動に取り組み、創造的な技能を高める。制作の見通しを持って表現できるように、制作段階を明確にした授業展開を行う。	ICT機器を活用した鑑賞を通して、お互いの意見交換や発表を円滑に行う。こうした鑑賞の活動を生かして、自らの発想や構想の力を分析して表現する力を高めさせる。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
義務教育最後の美術教科として、既習事項を活用して自分なりに最高の表現が出来るような指導を行う。達成感や自己肯定感の育成をもてるような題材を設定する。	主体的に発想や構想の能力を発揮出来る題材を設定する。絵画表現においては、テーマを明確にさせて発想の力を重視する。立体表現では各自のテーマに最もあった表現が出来るような材料や造形を構想させる。	小学校図画工作や中学校2年間の学びを生かして、意図に合った創造的な工夫を行わせる。完成までの見通しを持たせることで、主体的に表現の活動に取り組ませる。	日本文化や多様な美術表現の普遍的な価値を自分なりの感覚で捉えさせて、自分の言葉で伝えさせる。学習を通してよさや美しさを主体的に味わう鑑賞の力を高める。

令和元年度 保健体育科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・基礎的な運動課題からやりなおすことにより、技能及び運動への意欲の向上を図ることができた。
- ・一人ひとりの課題に合った取り組みができる学習カードを活用し、課題を解決させることができた。
- ・教え合いの授業を通してお互いに聞いたり教えたりして授業の中でコミュニケーション能力の向上を図ることができた。

(2) 課題

- ・幼少時からの運動経験の不足による、基礎体力・運動能力の低下。
- ・生徒一人ひとりが伸び伸びと活動することのできる授業の工夫。
- ・ICT機器を活用した、運動観察を通じた課題発見学習の展開。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和元年度結果	平成 30 年度結果	平成 29 年度結果
第 1 学年	/	/	/
第 2 学年	/	(第 1 学年時)	/
第 3 学年	/	(第 2 学年時)	(第 1 学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第 1 学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
授業規律の確立・集団行動の徹底を通じ、安全に学習できる環境が整ってきた。	自らの課題を発見しようとする姿勢が弱い。	体力テストの数値が全体的に都の平均を下回っているが、時間内での運動量は多くなってきている。	基本的な技能の名称や、体育理論、自らの健康について整理できたが、自分の言葉で説明できる生徒が少ない。

② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
安全に留意しながら取り組む姿勢や、互いに声を掛け合い、主体的に運動に取り組む生徒が増えてきた。	自らの課題を発見し、解決しようとするが、自分に合った練習方法を選んだり、工夫したりする生徒が多くない。	運動量を確保しながら、個々の技能の向上に取り組んでいるが、集団の中で活かせる技能までは至っていない。	基本的な技能の名称や、体育理論、自らの健康について整理することができた。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
安全に留意しながら取り組む姿勢や、互いに声を掛け合い、主体的に運動に取り組む生徒が多い。	自らの課題を発見し、解決しようとする生徒が増えてきた。提示された練習方法から課題解決に向けたものを選ぶことができるが、工夫する生徒が少ない。	運動量を確保しながら、個々の技能の向上に取り組んでいるが、集団技能にも繋がってきている。	基本的な技能の名称や、体育理論、自らの健康について整理することができた。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
運動や健康について興味・関心のある生徒が多いため、安全第一に取り組むことを継続して取り組ませる。	課題を端的に、明確に提示する。また、練習の内容や技能向上に繋がるポイントを分かりやすく説明しながら授業を展開する。	技能の向上を根底から支える、体力を向上させるために、運動量を確実に確保していく。模範を示し、体の動きをイメージしやすいようにする。	I C T機器を活用しながら、より高い意欲で学び、知識やポイントを理解・整理できるようにしていく。学習カードも継続して活用していく。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
運動や健康について興味・関心のある生徒が多いため、安全第一に取り組むことを継続して取り組ませる。	指示を少なくし、練習の内容を生徒同士が工夫しやすいようにアドバイスを出していく。	運動量を確保し、体力の向上を図りながら、基本的な技能に加え、発展的な技能にも挑戦していく。個人の技能は、全体に向けて発表・披露できるようにしていく。	I C T機器を活用しながら、より高い意欲で学び、知識やポイントを理解・整理できるようにしていく。学習カードも継続して活用していく。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
生涯の豊かなスポーツライフの設計に繋がるように、身近な運動や健康な生活を実践するための姿勢を育む授業展開を行う。	練習の内容を生徒同士が考え工夫しやすいようにアドバイスを出していく。	より高い技能を身につけられるよう、模範を示し、細かい技能指導を適宜行なう。I C T機器を活用しながら、模範との比較を行っていく。	運動や健康に関する知識が将来への関連性を意識させた学習をさせる。

令和元年度 技術・家庭科 授業改善推進プラン

大田区石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

・ICT機器を用いて作業の説明をすることにより、生徒の理解が深まり正しい方法で作業をできる生徒が増えた。

・体験的な学習を増やし、日常生活につながるような説明をいれたため、その知識や技能を家庭でも生かしているという生徒が増えた。

(2) 課題

・日常生活の体験不足を補い、実践的・体験的な活動を通して生活力を身につける。
 ・自分の意見や考えを的確に表現する「表現力」「相手の意見に対し、自分の言葉で意見する能力」が低い生徒が多い。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

分析 (観 点別) ① 第1 学年		令和元年度結果	平成30年度結果	平成29年度結果
	第1学年			
	第2学年		(第1学年時)	
	第3学年		(第2学年時)	(第1学年時)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
グループワークや体験型学習を多くして、興味関心を引き出すことができた。	自分の生活を豊かにするための工夫をした道具を考えさせることができた。	基礎を重点的に扱ってから製作に入るので、作品の製作時には必要な技能がそれなりにある状態で作業ができている。	木の硬さを知るのに実際に折るなど体験的な授業展開をすることにより、頭で理解するだけでなく、体感的な理解を深めることができた。

② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
今の自分の食生活や住生活を振り返らせ、その課題点と改善点を考えさせた結果、自分も家庭	自らの生活の課題に目を向けることができるようになってきた。	1年生のときよりも多くの道具を使い、複雑な作品を作るため、時間が足りなくなってしまう	栄養学のように知識的側面が強い分野も扱うようになり、定着が難しくなった。

の一員であると主体的に関わる態度を育むことができた。		生徒が多い。	
----------------------------	--	--------	--

③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
内容が中学生の自分という視点から、大人になる自分という視点になるため難しくなるが、体験談や映像資料を用いて自分にもかかわることであるという認識をもった生徒が多い。	得た知識を生活に落とし込むことができるようになってきていると感じる。	1・2年での既習事項を活用して、製作ができています。	知識の定着はできている生徒が多いと感じる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
生活を豊かに創り出すという視点をもった学習活動に取り組む。	経験不足から、どのように工夫すればよいかの思いがけない生徒が多いので、そこを補うようにグループワークや実例を用いる。	ただ作るのではなく、なぜその作り方をするのか、道具を使うのかということに重視して作業をさせる。	1年生は特に学習内容が定着しにくいため、新単元に以前の内容が関わるときは、以前の内容の振り返りも含めて新単元を学習させる。

（2）第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
自らの課題を理解し、それらの解決に向けて、創造しようとする実践的な態度を養う。	作品の完成後、自らの工夫した点や・悩んだ点などを書かせ、自己を表現する能力を育む。	時間配分をより意識し、道具も使いやすいうように前年より個数を増やし、授業内の完成を目指す。	知識的な側面が強い分野も可能な限り体験的な学習を取り入れることで記憶に残るようにする。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
中学生にはなじみが浅い分野について、自分の身近なことであると気づき、課題に対して主体的に行動する実践的な態度や資質、能力を育成する。	子どもや消費生活などなじみが浅い分野を考えていくので、イメージがわくように映像資料や体験学習や個々の体験談を活用する。	知識を技能に生かすため、実践的な内容のワークに取り組ませる。	全員が知識の定着が図れているわけではないので、小テストをするようにする。

令和元年度 英語科 授業改善推進プラン

大田区立石川台中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・領域別、観点別ともに目標値を上回っており、良好な結果といえる。
- ・表現の能力の向上を目指し、作文指導・文法指導に取り組み、良好な結果が得られた。
- ・単語の発音と綴りを結びつける指導として、1年生の授業においてフォニックスを系統的に指導した成果が見られる。

(2) 課題

- ・2年生、3年生ともに「場面に応じて書く英作文の力」について授業改善の必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和元年度結果	平成30年度結果	平成29年度結果
第1学年			
第2学年	上回っている。	(第1学年時)	
第3学年	前年度より 1.0 上回っている。	上回っている。 (第2学年時)	(第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

関心・意欲・態度	表現	理解	知識・理解
授業内のグループ活動、ペア活動に積極的に参加することができている。	基本文の定着を目指し、パターンプラクティスを多く取り入れている。	比較的短い英文が多いため、つまづいている生徒は少ない。	英語の音と綴りの関係を身につけさせるため、フォニックスの規則を学んだ。

② 第2学年

関心・意欲・態度	表現	理解	知識・理解
高い数値を示しており、良好である。	目標値を上回っており、良好である。表現活動に力を入れた成果と考えられる。	目標値を上回っている。文章の内容理解やリスニングに力を入れた成果と考えられる。	目標値を上回っている。語彙力に関して、類語との関連づけをする指導を継続して行っていく。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	表現	理解	知識・理解
高い数値を示しており、良好である。	目標値を上回っている。表現活動に力を入れ、基本構文の使用機会を増やした成果と考えられる。	目標値を上回っている。内容理解やリスニングに力を入れ、Q&Aの練習を行った成果と考えられる。	目標値を上回っている。語彙力に関して、類語との関連づけをする指導を継続して行っていく。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	表現	理解	知識・理解
基礎的な表現を使い、外国人講師との会話で成功体験を積みせ、日頃の授業でも生徒が英語で会話する機会を増やす。	基礎的な表現の確実な定着をめざし、繰り返し練習したうえ、自分の事を伝える活動を多く取り入れていく。	目標文の使用場面を教科書本文で確認するとともに、リスニングや英語でのQ&Aの練習を行う。	語句を正しく発音することができるように、音読の機会を多く設ける。基本的な構文を繰り返し練習し、定着をはかる。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	表現	理解	知識・理解
外国人講師の授業を活用するほか、日頃の授業でも生徒が英語で会話する機会を増やす。	状況に即し、自分が伝えたいことを適切な構文や単語を用いて話したり書いたりする力を伸ばす。英語で自己表現する機会を増やす。	英文を聞き、その内容に関する情報を整理する力や、長文の内容を把握する力を伸ばす。リスニングや英語でのQ&Aの練習を継続する。	単語を書くことにより綴りを定着させる。正しい時制を用いて英文を作ることができるように継続して指導する。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	表現	理解	知識・理解
外国人講師の授業を活用するほか、日頃の授業でも生徒が英語で会話する機会を増やす。また単語や文法について多くの関連情報を与え、関心・意欲を高めていく。	状況に即し、自分が伝えたいことを適切な構文や単語を用いて話したり書いたりする力を伸ばす。英語で自己表現する機会を増やす。また臨機応変に英語で反応できるよう、活動内容を工夫していく。	まとまりのある英文を聞き、その内容に関する情報を整理する力や、長文の内容を把握する力を伸ばす。リスニングや英語での Q&A の練習を継続する。	単語を書くことにより綴りを定着させる。既習の文法事項用いて英文を作ることができるよう継続して指導する。